

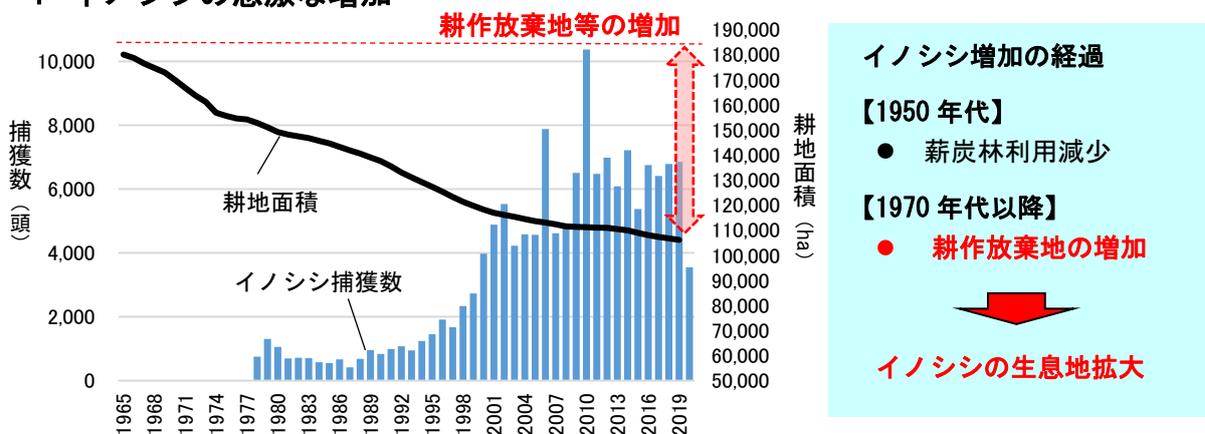
地域における総合的な獣害対策の取組について (ニホンジカ・イノシシ)

鳥獣対策室

令和元年7月の県内での野生イノシシの豚熱感染発生以降、感染の拡大防止のため、イノシシの捕獲、経口ワクチン散布等の対策を進めてきた。

豚熱の終息に向け、高密度生息地におけるイノシシの捕獲を一層効率化するため、生息適地である耕作放棄地に着目し、これまで着手しづらかった「生息環境対策(緩衝帯整備)」を主軸として、「捕獲」、「侵入防止柵対策」、「モニタリングによる見える化」の4つを組み合わせ、地域ぐるみで進めるイノシシ対策(ニホンジカの生息域拡大防止策含む)に取り組んでいる。

1 イノシシの急激な増加



●イノシシが生息しやすい環境

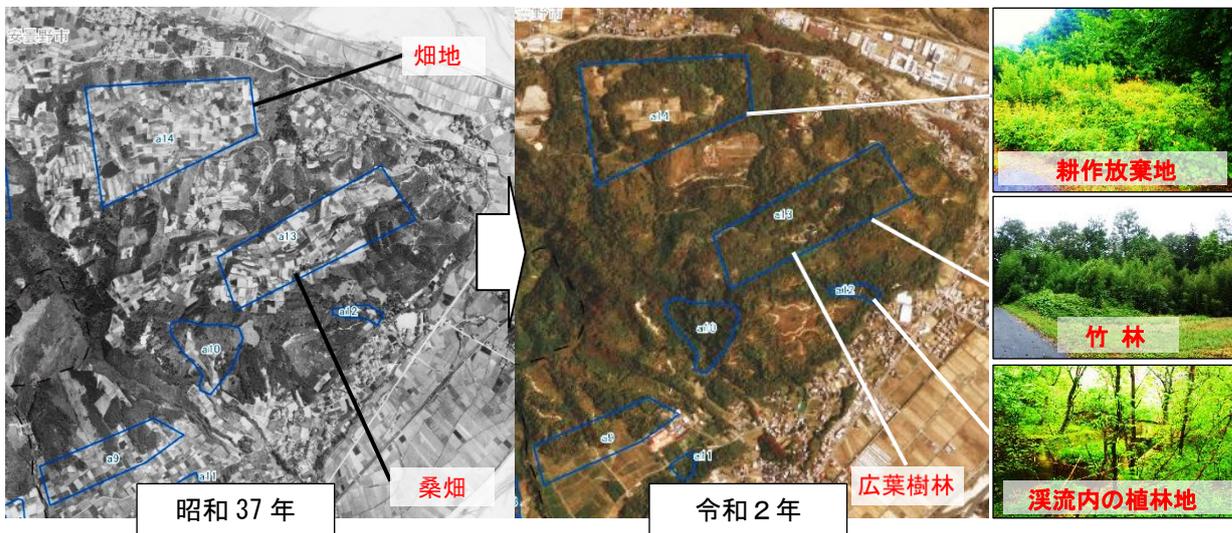
広葉樹林	・ 格好の隠れ場 ・ 草の新芽、根、堅果類の採食場
水田放棄地	・ 両生類等の採食場 ・ 夏場イノシシが体を冷やすための泥浴び場
竹林	・ タケノコの採食場

耕作放棄地の増加により、イノシシが繁殖しやすい生息環境が拡大

↓

防除(防護柵)と捕獲の対策だけでは被害は減らない。

●耕作地の変遷(池田町南部～押野崎) 昭和37年と令和2年の状況



2 令和3年度事業

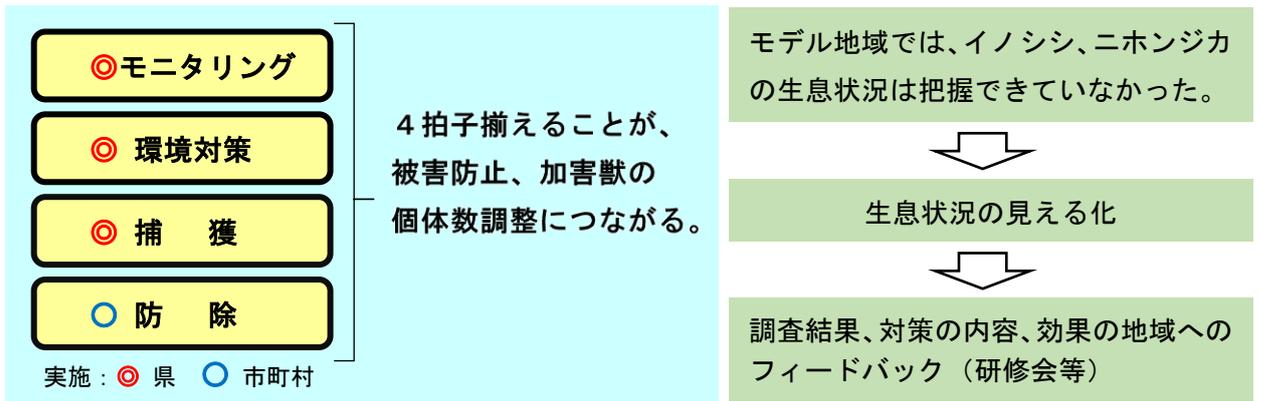
(1) モデル事業実施箇所

【安曇野市・池田町】

- 水田、畑、桑畑の耕作放棄地が多い。
- ワインブドウ栽培等、新たな農地活用が進んでいる。
- 野生動物の生息域拡大の要所
(ニホンジカの北アルプス方面への分散経路)



(2) 事業内容



① モニタリング (センサーカメラ調査)

- 赤外線ドローン等による生息状況の見える化 (地域住民との情報共有)
- 延べ撮影頭数 イノシシ 137 頭
シカ 1,982 頭
(約5カ月間：R3.9.29～R4.2.28)



地元の方が想定していた以上のイノシシ、ニホンジカを撮影

② 環境対策 (緩衝帯整備)

- ワインブドウ畑周囲のヤブ払いを実施 (4.2ha)
- センサーカメラによる整備後のイノシシ等出没減少効果の検証



令和3年度調査結果 (詳細は別紙参照)	撮影頭数	整備前(21日間)	整備後(26日間)
	イノシシ	11頭	1頭
	シカ	31頭	33頭

③ 捕獲活動 (地元猟友会への委託)

- 捕獲数 ニホンジカ 39 頭、イノシシ 8 頭 (R3.9月～12月、くくりわなによる捕獲)

捕獲実績が少ない地域で、想定以上のニホンジカ、イノシシを捕獲

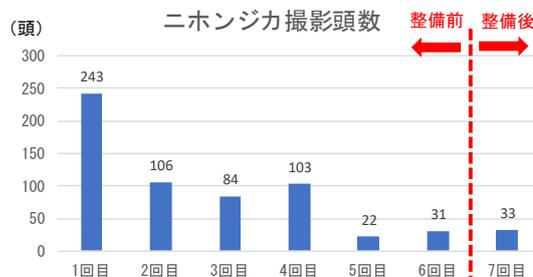
令和3年度センサーカメラ調査結果 (緩衝帯整備前後のイノシシ、ニホンジカの撮影頭数)

- 調査地：安曇野市（明科地区）、池田町（中之郷地区）
- 調査期間：令和3年9月29日～令和4年2月28日
- センサーカメラ台数：13台



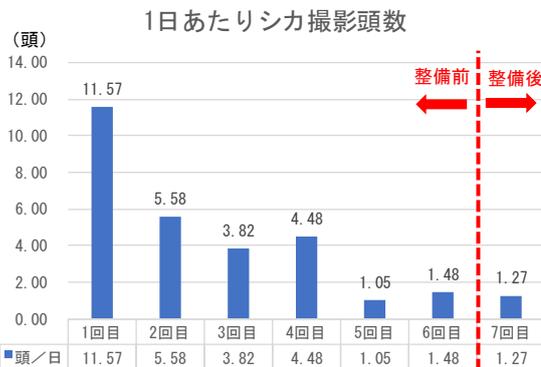
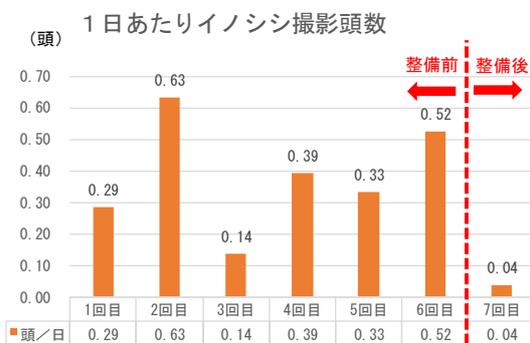
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
イノシシ (頭)	6	12	3	9	7	11	1
調査日数	21	19	22	23	21	21	26
調査開始日	9/29	10/19	11/7	11/29	12/22	1/12	2/2
調査終了日	10/19	11/7	11/29	12/22	1/12	2/2	2/28

※カメラのデータ回収ごとの集計結果



	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
シカ (頭)	243	106	84	103	22	31	33
調査日数	21	19	22	23	21	21	26
調査開始日	9/29	10/19	11/7	11/29	12/22	1/12	2/2
調査終了日	10/19	11/7	11/29	12/22	1/12	2/2	2/28

※カメラのデータ回収ごとの集計結果



- ・ 撮影頭数について、イノシシは緩衝帯整備後に減少しており、ニホンジカは緩衝帯整備前から減少している
- ・ いずれも、緩衝帯整備あるいは捕獲の効果によるものかどうかは不明であるが、令和4年度も同じ調査地点でセンサーカメラ調査を実施し、効果を検証予定

令和3年度モデル事業 実施状況

